



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. Francia 1968, 11

ISSUE DATE:

1968-05-28

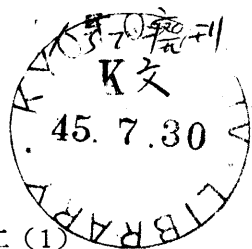
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/137527>

RIGHT:

FRANCIA

NUMÉRO 11



『パンセ』の一側面

—自然の探究をめぐって—

山崎 信二 (1)

パスカルにおける『イエス・キリスト』

東 宏 治 (12)

『クレヴの奥方』

—会話—

高 藤 冬 武 (28)

『クレヴの奥方』における障害の問題について

藤 井 峯 子 (37)

『ボードレールにおける創作のメカニズムについて』

中 堀 浩 和 (50)

ベルグソンとブルーストに関する一試論

山 本 徹 (67)

ブルーストにおける視線とヴィジョン探究の問題
について

鈴 木 祥 史 (75)

アンドレ・マルロオの挫折と発見

—小説作品にみるヒューマニズム追求の過程—

田 中 伸 子 (90)

— 京都大学フランス文学研究 —

1 9 6 7

京都大学附属図書館

Kyoto University Library

編集後記

今回は例年になく発刊が遅れたことを先ずお詫びします。

四十二年度は、われわれ京大に屯するものにとって、一つの時代のしめくくりの感がありました。秋十月の学会が京大仏文主催で催され、恙愛もなく会を閉じ、先輩のわれわれも諸務から解かれやれやれと思う間もなく、今期を最後に、生島先生、桑原先生および教養部の田中先生がお辞めになりました。人の別れには常に幾許の哀感が伴うものですが、まして三先生とは尋常ならぬ交りがあったのですから、離別は感懐も一入です。スタンダールが恋愛の最上に精神的恋愛を置いたように、人の交りで忘れ難い思い出を残すのは、精神の躍動をそこに感じたときです。文学というこの性悪女（なんとまた魅力あるもの）を手なづける手管を、象徴的言語で喃喃とわれわれに伝授して

下さった先生方に対するいい知れぬ感謝は等しくわれわれ一同のものでしよう。とりわけて生島先生には、この機関誌も多くの御援助を戴いております。紙面を借りてお礼を述べたいと思います。十一号の特徴はまず、同一作家に対する論文が二篇というケースが三組もあることです。それらを読み合せると、一作家に対する論者の視点の相異に興味を持たれます。ときには、作品内の同一事象に違った見方がひき出されます。それは文学研究の多様性と言い得ましようが、同時にこの文学研究そのものについて深く考えさせられます。特徴の第二は、若手の登場であり従って内容の素直さと新鮮さです。発刊の遅れから、字面では博士課程執筆者が大方ですが、編集当時では半数が修士です。フランスの発展のために喜ばしいことです。（川久保）

執筆者紹介

山 高 中 山 鈴 藤 東 田

崎 藤 堀 本 木 井 中

信 冬 浩 祥 峯 宏 伸

二 武 和 徹 史 子 治 子

大学院博士課程終了
樟蔭女子大学講師
竜谷大学助手
大学院博士課程
大学院博士課程
大学院博士課程
大学院修士課程
大学院修士課程

編集委員

（会 員）

川 家 山 田 鈴 東 田 大 松
久 本 本 淵 木 村 槻 本
保 保 邦 祥 宏 鉄
温 輝 興 彦 史 治 倣 勤
子 子 子 子 子 子 子 子

〔維持会員〕

FRANCIA —11—

1968. 5. 26 印刷

¥400

1968. 5. 28 発行

発行 京都大学フランス文学研究室

京都市左京区吉田本町京都大学文学部内

振替・京都 8087